

第25回 鎌倉市社会福祉大会

社会福祉大会は、鎌倉市内で福祉活動に尽力された方々の功労を讃えるため、毎年、秋に開催しているもので今回は25回目となります。今年は、去る11月11日(火)、鎌倉生涯学習センターで開催されました。

第一部：式典 29名18団体の方々表彰されました。おめでとうございます。

●特別表彰 保護司として20年以上在職功労 (敬称略・順不同)

脇田芳明

●ボランティア活動を20年以上継続

久保泰子、稲垣りつ子、月曜会、秋山昌子、横田豊子、伊澤康子、久能久美子、太田壬穂子、江上智子、杉崎ふさ子、井上 勇、石川齊子、石田まさ、鎌倉マジシャンズクラブ、愛のはがき、おむつグループ、リフォーム

●一般表彰

●民生委員・児童委員として10年以上在職
大木君江、橋本久美子、深谷三千代

●福祉団体の役員として10年以上在職
宮川忠男、進藤みや子、小松山まき江

●保護司として10年以上
鈴木正行、深山照世、浅野謙次、石井和行、山田隆二

●社会福祉事業に対し、労力的な援助協力
平倉淑子、坂上悠紀子、横川敏子

●福祉活動振興基金に多額の金円を寄付

大塚節子、新田拓作、有限会社オスコ七宝、株式会社ニユートーヨー大船会館ニユートーヨー大船店、ウェルフェアダンス鎌倉、神奈川県自転車商協同組合鎌倉支部、鎌倉45アマチュアダンスサークルチャリティ連合、鎌倉市技能職団体連絡協議会、鎌倉生涯学習センターフェスティバル運営委員会、日の本千代美音楽事務所、鎌倉駿台会、西鎌倉旅行会、鎌倉宮

●社会福祉事業に経済的援助協力
鎌倉シーサイドテニスクラブ、親切会関東支部



第二部：記念講演「本音を吐けない子どもたち」講師 青木 悦さん(教育ジャーナリスト)



はじめての歩

鎌倉をもっと住みよいまちにするため、地域福祉活動にご活躍されている方がたくさんいらっしゃいます。みなさんがどのような“きっかけ”で活動をはじめ、どのような“想い”をもって活動されているかをご紹介します。

●今回は、御成、大船、笛田のおもちゃ病院で活動しているボランティアグループ“おもちゃDr'sかまくら”の代表、二田水 靖さんにお話を伺いました。



おもちゃの名医としての貫禄にあふれた二田水さん

さんの子どもと接し、壊れたおもちゃの治療(修理)をすることで、子どもの頃に抱いた夢が今まさに実現しました。

「一番印象に残っている治療は？」と尋ねたところ、「初老の女性が大切そうに持ち込まれた“壊れたオルゴール”。懸命な治療により再生されたオルゴールは、この女性が亡きご主人から初めてのデートでもらった思い出深いプレゼントでした」と二田水さんは目を細めます。

おもちゃ病院は鎌倉の御成(鎌倉市福祉センター内)、大船(大船保育園内)、笛田(笛田リサイクルセンター内)の3箇所があり、そこで活動している“おもちゃDr'sかまくら”代表の二田水靖さんを、大船保育園の一室にある大船会場にお訪ねしました。

二田水さんは定年を迎える数年前から退職後の地域との関わりの必要性を感じ、町内会の役員や神社の氏子会のお手伝いを積極的に引き受けられ“男の町内会デビュー”を無事果たしました。「地域の活動を通じて沢山の友達と顔見知りになることができ、多くのことを学んだ」と二田水さんはボランティア活動の原点を振り返ります。そんな折、市社協主催の“第1回男性のためのボランティア講座”に参加し、活動の中で修理のための技術講習会の参加や他のおもちゃ病院等との交流で腕を磨いたそうです。その後、ご自分の活動のきっかけとなったボランティア講座の講師をされ、その生徒さん達の参加でボランティアグループ“おもちゃDr'sかまくら”が立ち上がったのが今から5年前のことです。

子どもの頃の夢は「学校の先生か小児科の医師だった」とおっしゃる二田水さんはボランティア活動を通じてたく

最近では、電子部品を使ったおもちゃが増えて交換部品の入手が困難になっていますが、“治療率”は実に95%という高いレベル。“おもちゃDr'sかまくら”には二田水さんの他にも凄腕のドクターが揃っておられます。

最後に男性がボランティア活動を行う上で大切なことを伺いました。「何より健康が第一。暇だから何となく“ボランティア活動”ではなく、自分ができる活動を会社時代の経験や考え方にとらわれず、人の意見を何でも聞いて取り入れる姿勢があればきっと仲間と楽しくお付き合いできます」

ドクターが白衣ではなくエプロン姿という何とも微笑ましい光景。ドライバーやペンチを治療道具に手際よく、そして大切そうにおもちゃの治療は続きます。



おもちゃ病院の活動の様子

おもちゃ病院の詳細については、市社協までお問い合わせください。電話(23)1075



ふくし 5

湘南鎌倉法律事務所
社協、福祉法律相談弁護士 有坂 正孝氏

■天女が舞い降りた(前編)

デュテューの「子供を抱いて」という唄があります。デュテューが妻の連れ子を思っで作った唄です。

子供の手をひいて 明日へ連れていく
王様にかしずくようにかしずいて
歩みに自信を持たせる

子供の心をとらえ、不安を除いてやる
そっと無言で恥ずかしがらずに
心で子供を抱きとめる

子供の手をとり 唄を歌ってやる
日暮れに眠るとき 愛で包んでやる
子供を在るままに受け入れ
その悲しみを慰める



この唄の「子供」を「老い」に置き換えますと、この唄は高齢者に接するときの私達の心構えを歌っている唄のように思えてきます。

長い間お茶とお花を教えていたB子さんに認知症状が現れ、日ましに症状が重くなってきました。横浜家裁はひとり暮らしのB子さんの成年後見人に私を選任しました。

朝の8時半にB子さんの自宅を訪問しての見守りが始まりました。半年程経った頃に彼女に笑顔と落ち着きが戻り、私の朝の挨拶に美しい日本語が返ってくるようになりました。「お陰さまです」有り難うございます。

1年が経過したある朝のことです。「お弟子さんが誰もこなくなっちゃった」B子さんがつぶやきました。B子さんは弟子がこなくなったという現実を認識する能力を失ってはいません。しかし来なくなった理由が分からないのです。私には彼女の悲しみを慰める言葉が思い浮かびません。

第28回 鎌倉福祉まつりのお礼

第28回鎌倉福祉まつりが9月7日(日)に鎌倉市福祉センターにおいて開催されました。約1,200人の市民の方々に足を運んでいただきました。



※模擬店、市民寄付バザー、バザー作品販売等の売上金(諸経費を差し引いた益金)はすべて福祉団体、地区社協、ボランティア団体などに還元し、福祉に役立てられます。

一口メモ



このマークを知っていますか??

聴覚障害者のシンボルマーク(耳マーク)

このマークは、聴覚障害を示す耳が図案化されたものです。

聴覚障害者は、障害そのものが分かりにくい「声をかけたのに返事をしない」などと誤解されたり、不利益や危険にさらされたりするなど、社会生活の上で不安が数知れずあります。

このマークを提示された場合は、相手が「聞こえない」ことを理解し、コミュニケーションの方法への配慮について御協力をお願いいたします。

取材担当
広報活動サポート会議メンバー
小野恵子さん